



2月3日(日) またもや、雨あるいは雪という予報。先週の「岩殿山」が雨で流れ、この日に行くはずだったのです。でも、もう我慢できない! 「岩殿山」がだめでも、どこかへ行こう! というわけで、「昇仙峡」に出かけました。「昇仙峡」は中央本線甲府駅から北へ、バスで約30分のところにある美しい渓谷です。天神森から仙娥滝までの約5キロは奇石怪石が連続する緩やかな上りの舗装路。途中から遊歩道になっています。ここなら、雨でも雪でも安全、傘をさして景色を堪能できます。

八王子から中央線で甲府に向かったのですが、相模湖駅から雨は雪に変わり、大月あたりでは20センチほどの積雪です。まさかこんなに雪が降るとは...。甲府駅からバスがあるのか、昇仙峡じたい歩けるのだろうか? と不安になります。しかし、甲府駅付近にはほとんど積雪はなく、バスも動いていました。

雪の昇仙峡をゆっくりと楽しみ、仙娥滝を見て、たった一軒営業していた宝石屋でお土産を買い、ほうとう会館でおいしい食事をして、さて、ここからバスで甲府駅へ向かうはずだったのですが、バスが来ない! どうする?

小野勝彦、関野ゆかり、町田行弘の珍道中です。



2 週連続の雨

1月27日(日) 大月の岩殿山へ行くはずでした。しかし、前日から降り出した雨は、日曜日の朝も降り続いていました。あきらめのつく降り方です。昨年の12月2日の「沼津アルプス」以来の企画ただけに悔しい。そこで、即座に1週間後の2月3日(日)に岩殿山ハイキングを行うことにして、みんなに連絡しました。

2月2日(土) どうやら天気は下り坂。日曜日は朝から雨で、どんどん下って行くらしい。次の企画は2月24日(日)「石老山」と決めているので、また、1週間後にといいのも、日程がつまりすぎてしまいます。雨でも楽しめる代替地を探します。

行き先は「昇仙峡」

2月3日(日) 朝5時30分、関野ゆかりさんから電話がありました。「今日はどうしますか?」「どうしましょうか?まだ、雨は降っていないけれど、確実に降りますよね」「こっちはもう降った後があって道路が濡れています」「岩殿山には行かないことにして、昇仙峡に行くことにしますよ」「じゃあ、これから出かけます」関野さんは来る。しばらくして、今度は小野さんから「今日はどうしますか?雪になるようだけど」「昇仙峡に行くことにします。関野さんも来ます」「わかりました、これから行きます」

八王子駅の横浜線のホームには、小野さん、関野さん、町田の3名が集まりました。町田麻樹は風気味なのでお休み、となればまさに雨の柿田川に出かけたメンバー、雨でもじっとしてられない。頭の中は「岩殿山」から「昇仙峡」に切り替わっています。「雪の昇仙峡はすばらしいと思いますよ」「雪にはならないでしょう」「そうかな？でも、雪の方がいいなあ」

雪、雪、大雪！

7時52分の高尾行きに乗り、高尾で甲府行き普通電車に
乗ります。高尾を出てトンネルをいくつも越えて、相模
湖駅に着くともう雪が、この雪は大月向かうにつれてひ
どくなります。電車から見えるはずの岩殿山も雪で見え
ません。ホームには20センチくらいの雪が積もってい
ます。昇仙峡ははたしてどんな状態なんだろう？

笹子あたりまでは、とにかく雪国。笹子トンネルを抜けて甲府盆地に入ると、穏やか、路面も見えます。

貸切バスは一人 200 円？

甲府駅は雪などほとんどありませんでした。駅に着いたのは9時45分ころ、ちょうど、昇仙峡行きのバスが出たところで、次は10時30分。バス乗り場は南口3番線。それまで自由行動。

バスは定刻通り、こんな日に昇仙峽に行く人はいないので、空いていて、市街地を抜けると3人の貸し切り状態です。山梨交通の路線バスは、週末のマイカーによる排気ガスの軽減に協力するたあめ、一部の路線で200円均一料金にしているようです。ガイドブックでは570円のはずが200円で昇仙峡口（天神森）へ。





水に浮かぶ石からまわりの岩へ

シーズンオフの昇仙峡はさびしい。まして雪。バスを降りても心細くなってしまいます。バスを降りて、バスの進行方向に向かって歩きます。すぐに橋があり、これを渡って左手に進みます。道幅は車一台分、左側に川が流れています。川幅はそれほど広くはありませんが、流れる水は透き通り、川の中には、大きな石がころがっています。いくつかの石には誰が名付けたのか知りませんが、名前があり、道路上にその石に向



かって標識があります。「亀岩」「トーフ岩」「ラクダ岩」「松茸石」など。すぐに納得して笑ってしまうものもありますが、なかなかどれが判断のつかないものもあります。最初はそれらを見つけるのが楽しいのですが、次第にどうでもよくなってきます。それよりも、まわりの風景を堪能した方が素敵なのです。

雪は降り続き、たまに車が横を通り、私たちと同じようなハイカーにまれに会っただけ。川の水は透き通り、ときに、蒼く、ソーダ水のようなエメラルドグリーンに



なったりします。雪は、石や岩の上に積もり、緑のある木々の緑の上に積もります。冬で葉が落ちて枝だけの木の枝に付いた雪は、満開の桜のようにも見えます。上流に進むにつれ、まわりの山の姿が少しずつはっきりしてきます。大きな岩で成り立つ山に木々が生えているのです。ところどころ確認できる岩肌がまた美しく壮大。「大仏岩」「五月雨岩」「登竜岩」などの名が付いているようです。



雪のため、のんびり休憩することもなく、1時間以上たちます。左手に「夢の松島」。美しい岩肌を見せた山が間近に迫ります。10分たらずで車道と別れ、遊歩道に入り



ます。遊歩道を歩き出すと左側にりっぱな岩山、「覚円峰」です。口を開けて、首の疲れも忘れて見上げてそのまま……。そして、「石門」をくぐります。この頃から雪は少し穏やかになり、明るくなってきました。岩や、木々に積もった雪が明るさを反射させてぼんやり輝いています。一方、遊歩道の雪は多くなってきました。



最後にあらわれた仙娥滝

昇仙橋を渡り、岩で覆われた道をくぐるように抜けると、見えました「仙娥滝」。今まで見てきた山と同じ岩肌の中を突き抜けるように水が落ち、滝壺はきれいなエメラルドグリーン。そして、まわりの木々は雪の演出でさらに効果を高めます。

ここから、緩やかな階段を上ると鳥居があって、それをくぐると土産物屋がありました。しかも営業している。今日、初めての営業していたお店です。「寄っていきなよ。私たちもいい暇つぶしになるからさ」この言葉で中に入ります。

実は、天徳年間(957 ~ 961 年) に昇仙峡の奥から水晶の原石が発見されたのが始まりで、このあたりは、ドイツのイーダー・オーベルシュタインと並ぶ世界の宝石研磨の 2 大中心地ということ。国立公園に指定されてからは水晶の発掘は禁止されていますが。白水晶、紫水晶、トルマリンなどが店内に並んでいます。どこかにころがっていきそうな雰囲気のできなので手にとって親しみが湧きます。値段もダイヤモンドなどとは違って庶民的といえ





そうかな？200円くらいのものから数百万、あるいはそれ以上。

「買ったよ」トルマリン！

町田が、安くて楽しい石はないかな？と店内を物色していると「買ったよ」と小野さん。なにを買ったかと思ったら、1万円のトルマリンのネックレス。いやあ、びっくり！なんでも、昔、やはり昇仙峡に来たときトルマリンのネックレスを買い、身につけていると体調がすこぶるよかったそうです。ところが、スポーツクラブのロッカーに忘れてなくしてしまったとか。その、昇仙峡に来て、再び買うチャンスが訪れたわけです。「信じれば効果があるんだよ。俺は信じるよ」

関野さんは、ハート形のペンダントを町田は、きれいな石を購入。同じ系列のはす向かいの店でも水晶を眺め、みんな石のパワーで元気になって食欲もわいて、食事へ。

なんで？バスが来ない！

こんな日はもちろんほうとうでしょう。ほうとう会館で、きのこほうとう、馬肉の薫製、アワビの薫製を肴に熱燗で乾杯。

バスは、14時30分。そろそろ15時になりそう。雪で遅れているのかもしれませんが。それにしても、遅い気がします。バスターミナルを兼ねている「影絵美術館」の受付の女性に尋ねますが“わからない”ようです。この駐車場の管理を任されているらしい人に聞くと、“今日、一回は来たみたいだけど“そんなバカな！

観光バスは、ここまで来ているのに、路線バスが来ないなんて。バスの時刻表の山梨交通に電話します。「今、昇仙峡滝上にいてバスを待っているのですが」「すみません、バスは、天神森往復となっています」「ここに、お客さんがいるのですから、次の便はここまで来てくれませんか？」「本社の決定なので」

戻るしかないのか。天神森まで行けばバスはあるようです。天神森まではここから1時間以上かかります。

やったぜ！トルマリンパワー？

とにかく。戻りながら、さっき楽しませてもらったお店に行きます。「こんにちは。バスが来ていないんですよ。天神森まで車で送ってもらえませんか？」昼食での日本酒の酔いがエネルギー、そして、小野さんのここでの買い物“トルマリン・パワー”に期待します。「ちょうど従業員が帰るところだから、一緒に乗って行けばいい」「どこまで？」「天神森まででいいのですが」「そこから甲府駅へ行くのかい？」「ええ」「だったら甲府駅まで乗って行けばいい」

こうして、4WDの車に乗せてもらうことになったのですが、1名定員オーバー。町田は後ろの荷物置き場にこまります。「後ろの方、みつからないように伏せていて下さい」「はい」

小野さん、トルマリン・パワーだよ！甲府駅から帰りの電車の待ち時間などもほとんどなく、あっという間に八王子、そして橋本、そのあとずっと町田かな？いやあ、おもしろかった。雨にも負けず、雪にも負けず…。

町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
関野ゆかり	242-0024	神奈川県大和市福田 8-14-11-202 0462-67-4629

